

# 農業の新しい技術

No. 730(令和2年(2020年)6月)  
分類コード 01-14  
熊本県農林水産部

## 黒毛和種種雄牛「福安照重」の選抜

農業研究センター 畜産研究所生産基礎技術研究室  
担当者：眞鍋由希

### 研究のねらい

産肉能力直接検定で選抜された種雄牛の遺伝的能力を推定するため、産肉能力現場後代検定及び育種価評価を実施し、その結果に基づき優秀な種雄牛を選抜する。

### 研究の成果

1. 脂肪交雑及びロース芯面積に優れた黒毛和種種雄牛「福安照重」を選抜した。

○血統

父 福安照 (黒原 4489)	祖父 福栄(黒原 2886)	— 安福(岐阜)(黒育 180)
	祖母 もりひら(黒原 1090240)	— 安平(黒原 2208)
母 みずほ (黒原 1569664)	祖父 安平照(黒原 3412)	— 安平(黒原 2208)
	祖母 まりひら(黒 2074754)	— 平茂勝(黒原 2441)

○登録番号：黒原 5939

○生年月日：平成25年8月9日

○生産地：熊本県合志市栄（熊本県農業研究センター）

2. 現場後代検定成績および育種価

○脂肪交雑は去勢 8.36、雌 7.00 と高く、歴代 2 位の成績であり、育種価も +2.366（評価種雄牛 2,638 頭中 38 位）と極めて高かった。

○ロース芯面積は去勢 61.8 cm<sup>2</sup>、雌 61.7 cm<sup>2</sup>と大きく、育種価も +15.744 cm<sup>2</sup>（評価種雄牛 2,638 頭中 164 位）と極めて高かった。

○SBVは枝肉重量-0.59、脂肪交雑 2.25、ロース芯面積 1.65、バラの厚さ 0.23、皮下脂肪の厚さ 1.71 であり、特に脂肪交雑の改良効果が大きいと推定される。

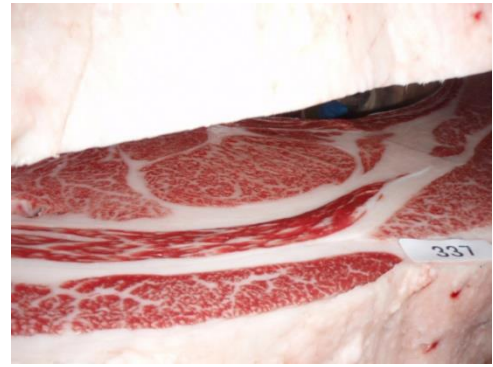
※SBV（標準化育種価）とは、産肉能力の特徴を把握しやすくするために、各形質の育種価を同一スケール上で比べられるようにしたもの。値が+1 以上の場合、改良効果が高いことを示す。

3. 特徴

母「みずほ」は、畜産研究所が県内から導入した高能力ドナー「まりひら」の娘牛である。本牛はこの「みずほ」をドナーとして、脂肪交雑に優れる「福安照」の交配により作出した。検定成績では、脂肪交雑が「美津福重」に次いで歴代 2 位を記録し、ロース芯面積も 61 cm<sup>2</sup>を超え、肉質面とロース芯面積の改良への貢献が期待される。

[具体的データ]

熊本県農林水産部



格付け:A-5 枝重:440.4kg  
 BMS:10 ロース:66cm<sup>2</sup>  
 ばら7.6cm 母の父:平茂晴

福安照重 (ふくやすてるしげ)

表1 現場後代検定成績

区分	頭数	枝肉重量 (冷と体) (kg)	脂肪交雑 (BMS No.)	ロース 芯面積 (cm <sup>2</sup> )	バラの 厚さ (cm)	皮下脂肪 の厚さ (cm)	歩留基準値
去勢	14	445.9	8.36	61.8	7.4	1.8	75.2
雌	6	418.0	7.00	61.7	7.6	2.4	75.1
全体	20	437.6	8.00	61.8	7.5	2.0	75.2

表2 育種価(BV) (R2.2月評価)

	順位	育種価	(正確度)
枝肉重量	1,829	-2.509	0.92
脂肪交雑	38	2.366	0.92
ロース芯面積	164	15.744	0.91
ばらの厚さ	984	0.445	0.90
皮下脂肪の厚さ	108	-0.965	0.92
歩留基準値	44	3.269	0.92

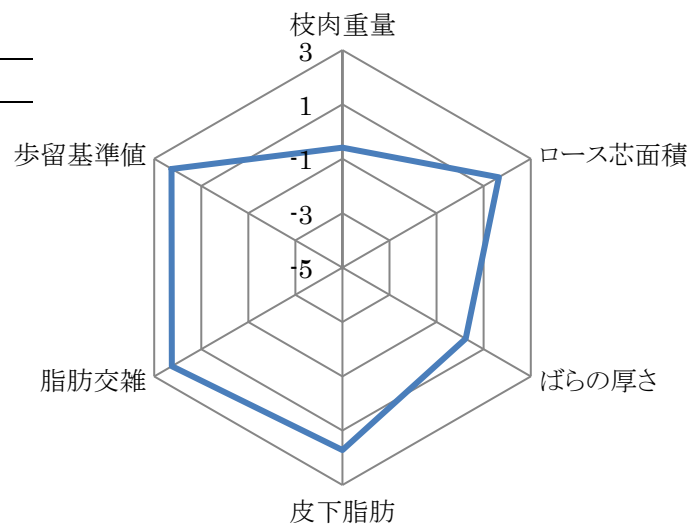


図1 SBV (標準化育種価)

- ※ 産肉能力の特徴を把握しやすくするため、各形質の育種価を同一スケール上で比較できるように処理したもの
- ※ 皮下脂肪は逆符号

※ 後代頭数 24 頭(フィールド成績を含む)

※ 順位は評価種雄牛 2,638 頭中の順位